

これから求められる学習指導について①。

各教科・領域等の授業実践を振り返る中で。

今年度の授業実践を振り返る視点として、また、これからめざすべき授業を考えるきっかけとして参考になる資料がございましたので、今号ではそれを紹介させていただきます。

文部科学大臣が中央教育審議会に、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」と題し、「新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について諮問を行う」と次のように諮問されました（H26/11/10 付け）。

（前略）そのために必要な力を子どもたちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）やそのための指導の方法等を充実させていく必要があります。

（中略）以上のような問題意識の下、今般、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について諮問を行うものであります。

それを受けて具体的に審議する事項も示しておられました。その内容を簡単ではありますが、整理すると次のようになります。

○言語活動

現行学習指導要領で示されている ○探究的な学習活動

○社会とのつながりをより意識した体験的な活動

の成果を踏まえつつ

☆「アクティブ・ラーニング」などの新たな学習・指導方法や、このような新しい学びに対応した教材や評価手法の今後の在り方についてどのように考えるか。

これらのことから、授業実践を振り返る視点及びこれからめざすべき授業のきっかけとして、**「『どのように学ぶか』という学びの質や深まりを重視すること」「アクティブ・ラーニング」**の2つはキーワードになってくると考えられます。大切にしたいポイントだと思います。次号からは、この2つのキーワードについて具体的に書いていきたいと思います。